

解集合プログラミングに基づく系統的探索と確率的 局所探索の統合的手法に関する研究

桑原 和也

番原研究室

2021 年度番原研中間発表会

2021 年 12 月 3 日

解集合プログラミング

解集合プログラミング (Answer Set Programming; ASP) は、論理プログラミングから派生した宣言的プログラミングパラダイム

- **ASP 言語**は、命題表現に限られる SAT を拡張し、述語表現を許した宣言的知識表現言語の一種である。
- **ASP ソルバー**は、安定モデル意味論 [Gelfond and Lifschitz '88] に基づく解集合を計算するプログラムである。
- 近年、SAT ソルバーを応用した高速 ASP ソルバーが実現され、AI 分野の諸問題への実用的応用が急速に拡大している。
- ごく最近では、時間割問題などの求解困難な**組合せ最適化問題**に対し、未解決問題の最適値決定を含む優れた結果を示している。

組合せ最適化問題に対して ASP を用いる利点と改善点

利点

- ASP 言語の**高い表現力**により、記号制約を簡潔に記述できる.
- 系統的探索 (分枝限定法) なので、**解の最適性を保証**できる.
- 探索ヒューリスティクスを簡単に試せる (#heuristic 文).
- マルチショット ASP 解法を利用して、メタ戦略を実装できる.

改善点

- **大規模な問題**に対して、ASP の系統的探索は確率的局所探索と比べて、**解の精度が劣る**場合がある.

カリキュラムベース・コース時間割問題 (CB-CTT)

- CB-CTT は代表的な教育時間割問題の一つである。
- 必ず満たすべき**ハード制約**と, できるだけ満たしたい**重み付きソフト制約**から構成される。
- 違反するソフト制約の重みの総和の最小化が目的となる。

ASP の優れた点

- 系統的探索であることを活かして, 最適値が未知であった 51 問の最適値決定に成功している [Banbara+ '19]。

改善を要する点

- ソフト制約が多く含まれるような問題集では, 確率的局所探索が, 多くの問題に対してより高精度な解を求めている。
- 既知の最良値との比の平均値は
 - ソフト制約が少ない問題集 (UD1) では +19.83%
 - ソフト制約が多い問題集 (UD5) では +100.17%

研究概要

研究目的

ASP 技術を用いて、系統的探索の長所である**最適性の保証**と確率的局所探索の長所である**計算時間相応の解精度**の両方を備えた統合的探索手法の実現を目指す。

- **方針**: 先行研究の**優先度付き巨大近傍探索 (LNPS)** [坡山ほか '18] をベースに、ASP に適した探索手法に関する研究開発を進める。

研究内容

- ① 組合せ最適化ソルバー *asprior* の実装
 - LNPS を ASP ソルバー *clingo* 上に実装
- ② カリキュラムベース・コース時間割問題を用いた評価実験

LNPS: 優先度付き巨大近傍探索 [坡山・番原・田村 '18]

組合せ最適化問題の最適値探索において、暫定解に含まれる変数の値割り当ての一部をランダムに選んで取り消し、他の値割り当てをなるべく維持したままで解を再探索する反復手法

LNPS: 優先度付き巨大近傍探索 [坡山・番原・田村 '18]

組合せ最適化問題の最適値探索において、暫定解に含まれる変数の値割り当ての一部をランダムに選んで取り消し、他の値割り当てをなるべく維持したままで解を再探索する反復手法

LNPS のアルゴリズム

- ① 初期解を x と置き、暫定解 $x^* := x$ とする.
- ② 以下の destroy と re-search で x から得られた解を x^t と置く.
 - **destroy** は x から値割当ての一部を取り消し x' とする.
 - **re-search** は x' の値割当てをなるべく維持したまま再探索する.
- ③ 受理条件を満たしていたら $x := x^t$ とする.
 - 例えば「 x^t が x より改善された解なら」という更新条件を用いる.
- ④ x^t が暫定解 x^* より改善された解なら、 $x^* := x^t$ とする.
- ⑤ 終了条件が満たされるまで、2~4 を繰り返す.
 - 繰り返し回数や制限時間などを終了条件に用いる.
- ⑥ 暫定解 x^* を返す.

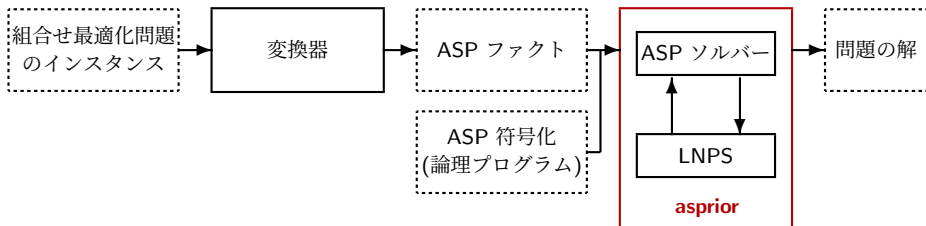
LNPS アルゴリズム (擬似コード)

Algorithm Large Neighborhood Prioritized Search

```
1: input: a feasible solution  $x$ 
2:  $x^* := x$ ;
3: repeat
4:    $x^t := \text{re-search}(\text{destroy}(x))$ ;
5:   if  $\text{accept}(x^t, x)$  then
6:      $x := x^t$ ;
7:   end if
8:   if  $c(x^t) < c(x^*)$  then
9:      $x^* := x^t$ ;
10:  end if
11: until stop criterion is met
12: return  $x^*$ 
```

組合せ最適化ソルバー *asprior* の実装

ASP ソルバー *clingo* の python インターフェースを用いて LNPS を実装



- **探索ヒューリスティクス (#heuristic 文)** : LNPS の値割当てをなるべく維持したままの再探索 (re-search) を, *clingo* の系統的探索で自然に実装している.
- **マルチショット ASP 解法** : LNPS の反復処理を, ASP システムを複数回起動することなく, 1 回だけ起動し動的にアトムを追加・削除しながら繰返し解くことで実装している.

実験概要

提案する LNPS アルゴリズムの有効性を評価するために実験を行った。

- **CB-CTT ベンチマーク問題**

- 国際時間割競技会 ITC-2007 の問題 (全 21 問)
- ソフト制約が最も多い問題集 (UD5) を使用

- **比較した手法**

- 既存手法: ASP ソルバー *clingo*
- 提案手法: LNPS を *clingo* 上に実装

- **LNPS のパラメータ**

- 初期解探索の打ち切り: $\#conflict \geq 2,500,000 \vee \#restart \geq 5,000$
- re-search の打ち切り: $\#conflict \geq 30,000$

- **CB-CTT の ASP 符号化**: *teaspoon* 符号化 [Banbara+'19]

- **ASP システム**: *clingo-5.4.0*

- **制限時間**: 1 時間/問

- **実験環境**: Mac OS (CPU : Intel Core i7 3.2GHz, メモリー : 64GB)

CB-CTT に対する destroy 演算子

既存研究 [Kiefer ほか'16] を参考に実装

- ① Random N (R- N)
- ② Day-Period (DP)
- ③ Day-Room (DR)

新しく考案した destroy 演算子

- ④ Swap-Room N (SR- N)
 - Random N と同様に、暫定解から変数の値割当ての $N\%$ をランダムに選んで取り消す. ただし、科目に対する曜日と時限の割当てはできるだけ維持する.
- ⑤ DP-Swap-Room N (DPSR- N)
 - Day-Period と同様に、曜日 D と時限 P をランダムに N 組選び、暫定解から D 曜 P 限に関する変数の値割当てをすべて取り消す. ただし、科目に対する曜日と時限の割当てはできるだけ維持する.

実験結果: 得られた最適値と最良値

問題名	既存手法 ASP	提案手法 LNPS						
		R-0,3,5	DP	DR	SR-5	SR-10	DPSR-1	DPSR-2
comp01	129	11	13	11	11	11	11	11
comp02	331	239	172	242	201	245	292	227
comp03	302	154	149	173	146	157	149	154
comp04	*49	*49	*49	*49	*49	*49	*49	*49
comp05	1940	797	926	1116	891	861	1038	957
comp06	822	135	140	204	118	106	150	160
comp07	924	131	118	129	72	77	76	74
comp08	*55	*55	*55	*55	*55	*55	*55	*55
comp09	254	154	149	146	145	151	149	139
comp10	822	177	167	133	97	109	108	102
comp11	*0	*0	*0	*0	*0	*0	*0	*0
comp12	1246	728	705	694	756	809	769	730
comp13	301	163	168	165	151	155	155	149
comp14	*67	145	179	165	104	83	128	139
comp15	607	213	234	238	215	224	211	236
comp16	944	156	180	162	223	158	146	165
comp17	412	226	230	234	199	208	202	235
comp18	471	168	152	158	144	149	153	136
comp19	890	192	187	219	176	163	198	174
comp20	1386	274	280	305	293	265	284	312
comp21	310	202	222	235	192	178	181	193
#最適値・最良値	4	5	4	5	8	8	6	7

- 提案手法は、既存の ASP より、多くの問題でより良い解を生成した。
- 提案手法の中では、SR , 次いで DPSR が良い性能を示した。

他のアプローチとの比較

問題名	既知の最良値 (#)	既存手法 ASP		提案手法 LNPS	
		最良値	#との比 (%)	最良値	#との比 (%)
comp01	11	129	+1,072	11	0
comp02	130	331	+154	172	+32
comp03	142	302	+112	146	+2
comp04	49	49	0	49	0
comp05	570	1,940	+240	797	+39
comp06	85	822	+867	106	+24
comp07	42	924	+2,100	72	+71
comp08	55	55	0	55	0
comp09	150	254	+69	139	-7
comp10	72	822	+1,041	97	+34
comp11	0	0	0	0	0
comp12	483	1,246	+157	694	+43
comp13	147	301	+104	149	+1
comp14	67	67	0	83	+23
comp15	176	607	+244	211	+19
comp16	96	944	+883	146	+34
comp17	155	412	+165	199	+28
comp18	137	471	+243	136	-1
comp19	125	890	+612	163	+30
comp20	124	1,386	+1,017	265	+113
comp21	151	310	+105	178	+17
#との比の平均			+437		+23

- 既知の最良値との比を、+437% から +23% に**大幅に改善**
- comp09,18 について、**既知の最良値を更新**することに成功

他の問題集での比較

- CB-CTT ベンチマーク問題
 - ITC-2007 以後に追加された問題 (全 40 問)
 - ソフト制約が最も多い問題集 (UD5) を使用

既知の最良値との比の平均 (%)

既存手法 ASP [Banbara+ '19]	提案手法 LNPS
+121	+80

- 提案手法は、既存手法と比較して既知の最良値との比を改善
- EA11,test4 について、**既知の最良値を更新**することに成功

まとめと今後の課題

① 組合せ最適化ソルバー *asprior* の実装

- ASP ソルバー *clingo* のマルチショット ASP 解法と #heuristic 文を用いて LNPS を簡潔に実装

② カリキュラムベース・コース時間割問題を用いた評価実験

- ソフト制約が多い問題集 (UD5) に対して、既知の最良値との比を、+437% から +23% に**大幅に改善**
- 61 問中 4 問について、**既知の最良値を更新**することに成功

今後の課題

- 他の組合せ最適化問題への適用
 - 巡回セールスマン問題, グラフ彩色問題
- 他の時間割問題への適用
- アダプティブ LNPS への拡張

LNS (Large Neighborhood Search)

LNS のアルゴリズム [Pisinger 2010]

- ① 初期解を x と置き、最良解 $x^* := x$ とする。
 - ② 以下の destroy と repair で x から得られた解を x^t と置く。
 - destroy は x から値割当ての一部を取り消し x' とする。
 - repair は x' の **値割当てを変化させずに解を再構築**する。
 - ③ 更新条件を満たしていたら $x := x^t$ とする。
 - 例えば「 x^t が x より改善された解なら」という更新条件を用いる。
 - ④ x^t が最良解 x^* より改善された解なら、 $x^* := x^t$ とする。
 - ⑤ 終了条件が満たされるまで、2~4 を繰り返す。
 - 例えば繰り返し回数や制限時間などを終了条件に用いる。
 - ⑥ 最良解 x^* を返す。
-
- 再構築した解 x_t では、取り消された変数に対してのみ再割当てが行われ、 x' の値割当ては変化しない。
 - VRP (Vehicle Routing Problem) など、比較的独立した複数の部分問題に分割できる場合に良い性能を示すことが報告されている。

時間割問題

求解困難な組合せ最適化問題の一種である。

- 時間割に関する国際会議 PATAT および**国際的な時間割競技会**が開催され、時間割ソルバーの性能向上に貢献している。
 - 教育時間割
 - **カリキュラムベース・コース時間割 (CB-CTT)**
 - ポストエンロールメント・コース時間割
 - 試験時間割
 - 輸送時間割
 - 従業員時間割
 - スポーツ時間割
- 本発表では、最も研究が盛んな CB-CTT を対象とする。
- CB-CTT は、以下のように定式化される。
 - 必ず満たすべき**ハード制約**と、できるだけ満たしたい**重み付きソフト制約**から構成される。
 - 違反するソフト制約の重み (ペナルティ) の総和の最小化が目的。

制約と問題集 (カリキュラムベース・コース時間割)

制約	UD1	UD2	UD3	UD4	UD5
H_1 . Lectures	H	H	H	H	H
H_2 . Conflicts	H	H	H	H	H
H_3 . RoomOccupancy	H	H	H	H	H
H_4 . Availability	H	H	H	H	H
S_1 . RoomCapacity	1	1	1	1	1
S_2 . MinWorkingDays	5	5	-	1	5
S_3 . IsolatedLectures	1	2	-	-	1
S_4 . Windows	-	-	4	1	2
S_5 . RoomStability	-	1	-	-	-
S_6 . StudentMinMaxLoad	-	-	2	1	2
S_7 . TravelDistance	-	-	-	-	2
S_8 . RoomSuitability	-	-	3	H	-
S_9 . DoubleLectures	-	-	-	1	-

CB-CTT に対する既存 ASP の結果 [Banbara+ '19]

問題	UD1		UD2		UD3		UD4		UD5	
	既知の ベスト	ASP	既知の ベスト	ASP	既知の ベスト	ASP	既知の ベスト	ASP	既知の ベスト	ASP
comp01	4 =	4	5 =	5	8 =	8	6	9	11	19
comp02	12 =*	12	24 =*	24	12 =*	12	26	55	130	231
comp03	38	53	64	109	25	47	362	405	142	204
comp04	18 =	18	35 =	35	2 =*	2	13 =*	13	59 >*	49
comp05	219	504	284	624	264	556	260	459	570	1081
comp06	14 =*	14	27 =	27	8 =*	8	15 >*	9	85	88
comp07	3 =	3	6 =	6	0 =	0	3 =*	3	42	256
comp08	19 =	19	37 =	37	2 =*	2	15 =*	15	62 >*	55
comp09	54	63	96	169	8 =*	8	38	50	150	196
comp10	2 =	2	4 =	4	0 =	0	3 =*	3	72	73
comp11	0 =	0	0 =	0	0 =	0	0 =	0	0 =	0
comp12	239	343	294	456	51	114	99	388	483	1135
comp13	32 >*	31	59 =	59	22	50	41	111	148 >	147
comp14	27 =*	27	51 =	51	0 =	0	16 >*	14	95 >*	67
comp15	38	53	62	109	16	22	30	68	176	254
comp16	11 =*	11	18 =	18	4 =*	4	7 =*	7	96	438
comp17	30 =*	30	56 =	56	12 =*	12	26 >*	21	155	352
comp18	34	48	61	81	0 =	0	27	46	137	228
comp19	32 >*	29	57 =	57	24	32	32	82	125	283
comp20	2 =	2	4 =	4	0 =	0	9 >*	3	124	704
comp21	43	94	74	124	6 =	6	36	76	151	166

#heuristic 文 (1/3)

コード例

```
{a ; b}.  
:- a, b.  
#heuristic a. [1, true]  
#heuristic b. [2, true]
```

- 1 行目のルールは、選択子を使ってアトム a と b を導入している。
- 2 行目のルールは、 a と b が同時に成り立たないことを表している。
 - このプログラム例の解集合は $\{\}, \{a\}, \{b\}$ の 3 つである。
- 3 行目の `#heuristic` 文は、優先度 1 で a に真を割当ててることを表している。
- 同様に、4 行目は優先度 2 で b に真を割当ててることを表している。

#heuristic 文 (2/3)

#heuristic 文を無効にした実行例

```
% clingo heu.lp -n 0
clingo version 5.4.0
Reading from heu.lp
Solving...
Answer: 1

Answer: 2
b
Answer: 3
a
SATISFIABLE
```

#heuristic 文 (3/3)

#heuristic 文を有効にした実行例

```
% clingo heu.lp -n 0 --heu=domain
clingo version 5.4.0
Reading from heu.lp
Solving...
Answer: 1
b
Answer: 2
a
Answer: 3

SATISFIABLE
```

- 優先度の高いアトムから順に、値割当が行われていることがわかる。

#heuristic 文を用いた LNPS の re-search の実装

```
#heuristic  $p(t_1, \dots, t_n)$  : heuristic( $p(t_1, \dots, t_n)$ , W, T). [W, true]
```

- アトム $p(t_1, \dots, t_n)$ は暫定解を表す.
- 補助アトム $\text{heuristic}(p(t_1, \dots, t_n), W, T)$ は, 各反復 T において, $p(t_1, \dots, t_n)$ に優先度 W で真を割当ることを意味する.
- インクリメンタル ASP 解法を用いて, 補助アトム $\text{heuristic}(p(t_1, \dots, t_n), W, T)$ を, 動的に追加・削除することで, $p(t_1, \dots, t_n)$ への値割り当てをなるべく維持したままで解を再探索を実現している.

教室に関するソフト制約

● day-period

- ランダムに曜日 (D) と時限 (P) を選び、暫定解から D 曜 P 限の値割当てをすべて取り消す.
- 教室に関するソフト制約のペナルティを減らすことが狙い.

① RoomCapacity

- 各科目について、受講者数が使用する教室の収容可能人数を超えてはいけない. 違反した場合、超過人数に応じたペナルティが課される.

② RoomStability

- 同一科目のすべての講義は、同一教室で開講される. 違反した場合、異なる教室数 (最初の教室は除く) に応じたペナルティが課される.

③ TravelDistance

- 各課程について、同一曜日に異なる建物の教室で開講される連続した講義があると違反となり、建物間の移動毎にペナルティが課される.

④ RoomSuitability

- 各科目の講義は、開講不可能な教室で開講されることはない. 違反した講義毎にペナルティが課される.

時限に関するソフト制約

● day-room

- ランダムに曜日 (D) と教室 (R) を選び, 暫定解から D 曜日の R 教室の値割当てをすべて取り消す.
- 時限に関するソフト制約のペナルティを減らすことが狙い.

① IsolatedLectures

- 同一課程に属する講義は, 連続した時限に開講される. 同一曜日に同一課程に属する他のどの講義とも隣接していない (孤立した) 講義がある場合に違反となり, 孤立した講義毎にペナルティが課される.

② Windows

- 同一課程に属する講義は, 空き時限なしで開講される. 同一曜日に同一課程に属する 2 つの講義の間に空き時限がある場合に違反となり, 空き時限の長さに応じたペナルティが課される.

③ DoubleLectures

- 連続講義の形態をとる科目は, 同一曜日に複数の講義がある場合, それらは連続した時限に同一教室で開講される. 違反した講義毎にペナルティが課される.

day-period による destroy

- day-period

- ランダムに曜日 (D) と時限 (P) を選び、暫定解から D 曜 P 限の値割当てをすべて取り消す.
- 教室に関するソフト制約のペナルティを減らすことが狙い.

	1 時限目	...
⋮		
水曜日	教室 A : アルゴリズム 教室 B : コンパイラ 教室 C : プログラミング	
⋮		

収容人数 : 教室 A 30 人
教室 B 50 人
教室 C 70 人

受講者数 : アルゴリズム 60 人
コンパイラ 40 人
プログラミング 30 人

- destroy で曜日として水曜日, 時限として 1 限を選ぶとする.
- 同一曜日, 同一時限の講義間での教室の交換を促すことで, 教室に関するソフト制約違反の改善を狙う.
 - アルゴリズムとプログラミングの教室を交換することで, 収容人数オーバーを改善することができる.

dp-swap-room N による destroy

- **dp-swap-room N**

- 曜日 D と時限 P をランダムに N 組選び、暫定解から D 曜 P 限に関する変数の値割当てをすべて取り消す。ただし、科目に対する曜日と時限の割当てはできるだけ維持する。

アトム

- **assigned(C, R, D, P).**

- 講義 C が曜日 D の時限 P に教室 R で開講されることを表す。

- **assigned(C, D, P).**

- 講義 C が曜日 D の時限 P に開講されることを表す。

- assigned(C, D, P) を 0%取り消し (100%再利用),
assigned(C, R, D, P) を一部取り消す。

- assigned(C, R, D, P) が取り消されても, assigned(C, D, P) が再利用によって優先的に割り当てられるため, 該当する講義を同じ曜日・時限に優先的に割り当てながら, 教室についてのみの変更を促す。

day-room による destroy

- day-room

- ランダムに曜日 (D) と教室 (R) を選び、暫定解から D 曜日の R 教室の値割当てをすべて取り消す。
- 時限に関するソフト制約のペナルティを減らすことが狙い。

	1 時限目	2 時限目	3 時限目
⋮			
水曜日	教室 A : アルゴリズム 教室 B : コンパイラ 教室 C : プログラミング	教室 A : 教室 B : 数値解析 教室 C : データベース	教室 A : オートマトン 教室 B : パターン認識 教室 C :
⋮			

- destroy で曜日として水曜日、教室として教室 A を選ぶとする。
- 同一曜日、同一教室の講義間での時限の交換を促すことで、時限に関するソフト制約違反の改善を狙う。
 - アルゴリズムとオートマトンが同一課程に属する場合、オートマトンを 2 限に移すことで、特定のソフト制約違反を改善することができる。

swap-room N による destroy

- **swap-room N**

- 暫定解からランダムに $N\%$ の値割り当てを選び、曜日と時限はそのまま、割り当てられている教室の情報を取り消す。

アトム

- **assigned(C, R, D, P).**

- 講義 C が曜日 D の時限 P に教室 R で開講されることを表す。

- **assigned(C, D, P).**

- 講義 C が曜日 D の時限 P に開講されることを表す。

- assigned(C, D, P) を 0% 取り消し (100% 再利用),
assigned(C, R, D, P) を $N\%$ 取り消す。

- assigned(C, R, D, P) が取り消されても, assigned(C, D, P) が再利用によって優先的に割り当てられるため, 該当する講義を同じ曜日・時限に優先的に割り当てながら, 教室についてのみの変更を促す。

追加実験

- CB-CTT ベンチマーク問題
 - 国際時間割競技会 ITC-2007 の問題 (全 21 問)
 - ソフト制約: UD1, UD2, UD3, UD4

既知の最良値との比の平均 (%)

	既存手法 ASP[Banbara+'19]	提案手法 LNPS
UD1	+20	+18
UD2	+24	+11
UD3	+25	+13
UD4	+58	+19

- 提案手法は、UD5 よりもソフト制約が少ない UD1～UD4 でも、既存手法と比較して既知の最良値との比を改善